

第6学年社会科における「意味と内容」のひろがり

6年B組 田中 いずみ

—題材『紀州徳川家八代将軍吉宗』の学習をとおして—

1 子どもに対するねがいと学習指導のねらい

私も子どもたちも和歌山で生まれ、和歌山で育ち、和歌山で生活をしている。また、附属小学校の横には和歌山城があり、徳川吉宗の銅像があり、吉宗生誕の地がすぐ近くにある。そこで社会科の歴史学習の中で“徳川吉宗”を学習対象として位置づけた学習をしようと考えた。八代将軍となった吉宗を探ることで“紀州からみた江戸時代”が見えてくると思ったからである。自分たちのまわりにある吉宗が残した痕跡をひとつひとつ見つけ、調べて行く中で、吉宗に対しての自分なりのおもいをもってほしいと考えた。「八代将軍になった吉宗はやっぱり偉大な人だ。」「吉宗は和歌山城の財政を建て直したから、江戸でも活躍できたんだ。」「吉宗の質素儉約はすごく庶民的だ。」…というようなおもいを持って、吉宗という人についてひとりひとりが探っていけると考えたからである。そして、320年前に生まれた吉宗と同じ和歌山という地で今自分たちが生活をしているということに誇りを持って欲しい。吉宗と自分をどうつなげて考えるのか、そして、それを自分の未来へとつなげていける、そんな学習を展開したいと思い『吉宗』を学習対象として学習を進めたのである。

この単元を学習するにあたっての中心になる単元目標は……

◎吉宗が今に残したもの、江戸時代から今につながっていることに目を向け考える中で、未来の自分につなげていくことができる。

とした。この目標を到達するために、学習する中で大事にしたいこととして

- 1 将軍としておこなった吉宗の政策や考え方を学ぶ
- 2 八代将軍吉宗と紀州藩主吉宗を比べることで、違いやつながりを見つめる
- 3 今と吉宗のつながりを見つめる中で、吉宗を見近な存在だと感じる
- 4 吉宗・自分・未来をつなげたものの見方ができる

この4つを柱に子どもたちと共に学習を進めた。

2 六年生の子どもがとらえた「意味と内容」

(1) つながりのある学習を……

私は歴史学習をする中で1番大事にしてきたことは、子どもたちに“今の自分”や“今のこの時この場所”と“歴史”をつなげたものの見方をしてほしいと願ってきた。「昔、こういうことがあったんだな」ではなく「昔のこういう出来事が今の～に生かされているんだな」というような考え方の出来る子にしたいと思っている。従って“紀州徳川家八代将軍吉宗”の学習においても「つながり」をキーワードに進めていきたいと思った。

まず本単元で考える「意味と内容」とは“徳川吉宗が江戸幕府を再建しようとした政策

やしくみを捉えるなかで吉宗の人となりを考えること”と捉えた。そして意味と内容を深めていく第一歩として、まずは“吉宗が今に残したもの”や“吉宗と今とのつながり”について子どもたちはひとり学習を始めた。幸い附属小学校の近くには、吉宗像を始め、吉宗生誕の地、吉宗の生家、和歌山城、岡の宮・・・などたくさんの場所やものが今に残されている。自分たちが今までなにげなく見過ごしてきたものが、調べを進めていくうちに吉宗とつながっていくという事実、子どもたちはすごく楽しさと興味を持って「つながり」を見つけていった。このつながりを深く追求していくと、吉宗が和歌山城藩主の時に行った政策へとつながっていくのである。これが後の八大将軍としての吉宗の政治の基盤となっているということに子どもたちは、驚きながらもより深く追求していった。この追求こそが「意味と内容」そのものであると私は思っている。ひとりひとりの追求する「意味と内容」がいくつも合わさって、クラスの大きな課題となり、今度はクラス全体の課題に対してのひとり学習が始まったのである。

3 「意味と内容」がひろがる場面

私は子どもたちひとりひとり自分が持つ吉宗像をどう自分の未来につなげていくのか、そこが意味と内容のひろがりの部分だと考えた。子どもたちひとりひとりが捉えた吉宗像は様々であった。自分の追求した事柄を根拠にして吉宗の人となりを考えるから、子どもたちは自分の考えに自信をもっていたのである。授業記録をもとに分析してみたい。

- | |
|---|
| <p>T1 いろんな吉宗像がでてきたけど、みんなはそんな吉宗についてどう思う？</p> <p>C (発問がまずくて子どもたちはなんて答えたら良いのかわからない様子)</p> <p>T2 吉宗を見てマネしたいなあとかこんなところがいいなあとか思うところないかな？</p> <p>C1 吉宗は目安箱を作って他の人のことを考えたから、ぼくも募金とかして他の人のことを考えられる人になりたい。</p> <p>C2 吉宗はいい人でヒーローみたい。ぼくだってヒーローになりたいし、人に役立つ人になりたいと思います。</p> <p>C3 ウチは赤字なので吉宗みたいに質素儉約をしていきたい。ぼくにできることは電気代を節約することかな。</p> <p>C4 今の日本はだいたい平等やけど、もし平等でなかったら吉宗が助けてくれるかもしれない。また私達がそんな日本をつくっていかねばならないと思う。</p> |
|---|

本授業の前半では『吉宗ってどんな人だろう』ということについて、子どもたちは自分の調べた根拠をもとに自分の持つ吉宗像について話し合いをしたのである。「目安箱を作って庶民の意見を聞こうとしたからやさしくていい人だ。」「ゾウを飼っていたから好奇心のある人だと思う。」「自分も木綿の着物を着ていたから質素儉約家だ。」・・・などを話し合っていたから、T1の発問の答えと重なるので何を言っているのかわからなくなるのが当たり前である。これは自分の発問ミスである。そこでT2の発問に言い換えるとすぐに子どもたちは、自分と吉宗を重ね合わせての発言をし始めた。この時、ほとんどの子どもたちが、自分を吉

宗にぐっと近づけ、吉宗を身近な人として思いをめぐらせていたと思う。この時、ひとりひとり子どもたちは「吉宗」を中心にして自分を見ていたのである。これが本単元で私が求めていたまなざしの共有の時であり同時に意味と内容のひろがりの時であった。では具体的にその時を考えてみたい。

例えば、友達の発言を聞きながら「～さんも自分と同じように、吉宗のように人のことを考えられる大人になりたいと思っているんだな」と知ることによって発表が出来なくても自分の考えに自信を持つことができる子がいる。また「～くんはヒーローになりたいって言ってるけど、ぼくは吉宗はヒーローとは思っていない。ぼくとは反対の意見だな」と違いを見つけ認め合える子もいるのである。私の問いは子どもたちが自分のおもいを話すための小さなきっかけである。そのきっかけをもとに、ひとりひとりの子が自分と吉宗を重ね合わせておもいを語ることで、まなざしがひとつふたつとだんだん大きくなり、クラス全体のまなざしの共有へとつながり、意味と内容のひろがりを見ることができた。

しかし反省もある。それは自分の発問（吉宗を見てマネしたいなあとかこんなところがいいなあとか思うところないかな？）が“吉宗はいい人である”というふうにしかなし発言できないような誘導尋問ではなかったかということである。吉宗という人について「吉宗は鷹狩りにたくさんのおもいを連れて行ったから、自分勝手にえらそうな人」だと捉えていた子もいたのである。そんな子にとってはクラス全体が“吉宗はいい人”というムードの中で自分の考えは言いにくかったかもしれない。いい人ではない吉宗をもっと出させることで、より吉宗が魅力的な人間として子どもたちには捉えられたのかも知れない。それが自分の反省となっている。

最後に意味と内容のひろがりを深めた子どもたちにひとつ聞いてみたいことがあった。それは単元の中で課題を決定するときに「難しすぎる」と子どもたちが敬遠したTさんの問いに対してのひとりひとりの答えをである。学習の最後なら子どもたちは自分なりの答えを出せると思ったからであった。

T1 最後にみんなに考えて欲しいことがあるんだけど、Tさんがずっと言っていたことをTさんみんなに言ってみて。

T “吉宗が今の私達を見てどう思うのか”を考えてみたいです。

T2 みんなどうかな？

C1 吉宗はすごく嬉しがってると思います。だって今、わたしたちが吉宗の授業をしていて“吉宗ってすごい人やとかいい人や”とか言ってるからです。

C2 嬉しいと思うけど、ちょっとはずかしがってるかもしれないと思います。だって誰だってあんまりほめられたら照れ臭いし、ぼくもそうだから。

C3 320年後に生まれたぼくらの授業のモデルになってびっくりしてると思う。

C4 目安箱とか質素儉約とか自分がやってたことが、320年も引き継がれているからすごく嬉しいと思っています。

T3 引き継がれてるんやね。これからは？

C5 吉宗が残したことは、ぼくらが引き継いでいけないういけないと思う。同じ和歌山に生まれたんやし、大事にしていかなければならないと思います。

このように子どもたちは、自分たちも吉宗はすごい人だと慕っているし、また吉宗もこんな自分たちを見て嬉しいな、これからも引き継いでいってほしいと願っていると捉えていたのである。私はこの“紀州徳川家代将軍吉宗”の学習が終わった後、子どもたちに「吉宗」に対して、偉大さと親近感、この2つを感じてほしいと願っていた。生まれながらの将軍ではない吉宗が将軍としてたくさんの業績を今に残していることを知ることで、自分も何かやってやろう！というような大きな夢の持てる子になってほしいと思っていたのである。

余談になるが、実際この学習が終わった後も、和歌山城で“吉宗鍋”を食べよう！というイベントが行われ、クラスの子も何人が参加したようである。吉宗ポテトという洋菓子を買に行った子、おおみそかに吉宗の残した鐘をつきにいった子など、吉宗がずいぶん気になり始めているようである。学習が終わった後での吉宗とのつながりを見つけするのは子どもたち自身



である。この学習がきっかけになり子どもたちの真の追求への第一歩となってくれることを私は期待している。

4 成果と課題

成果としては“紀州徳川家八代将軍吉宗”の学習をしたことで、子どもたちが自分の身近な場所や人物について興味を持って見つめることができたことである。自分の足もとに広がっている歴史的な事実にはビックリしながらも楽しく学習を進めていけたことが非常に良かったと思っている。

最初、吉宗の学習をする時「どんなことから学習をするのかな？」と聞いていました。みんなで課題を決めてのひとり学習はしんどかったけど“吉宗はこんな人なのか”ということがわかりすごく興味をもてました。岡の宮にも見学に行ったり、身近な所に吉宗の残したものや今とのつながりがあったりして驚いたりもしました。ひとり学習が多くてみんなで学習することは少なかったけど、みんなで学習する中でいろんな事も知れて満足できる学習でとても楽しかったです。今までふつうに見ていた吉宗像や和歌山城も今度からは「吉宗はこんな人だったのかな」とか「吉宗はここで暮らしていたんだな」とか感じながら見ていきたいです。六年になって始めて歴史の学習をして私は歴史にすごく興味を持ったのでこれからは自分でどんどん調べていきたいと思いました。

(Yさんの感想より)

最後に課題としては「歴史学習をするときに、どれだけ歴史的事実に基づいた学習ができるか」ということである。歴史は調べれば調べるほど文献がたくさんあり、資料によって異なる記述をしている場合も多い。そんな時、どこまで子どもたちに調べさせていくのが難しかった。あまり専門的になると子どもたちの手に負えないこともあり、博物館の方に分かりやすく解説してもらったこともあった。やはり六年生の子どもの調べ方、見方、考え方を大事に楽しい歴史学習を進めていくことが今後の課題だと思っている。